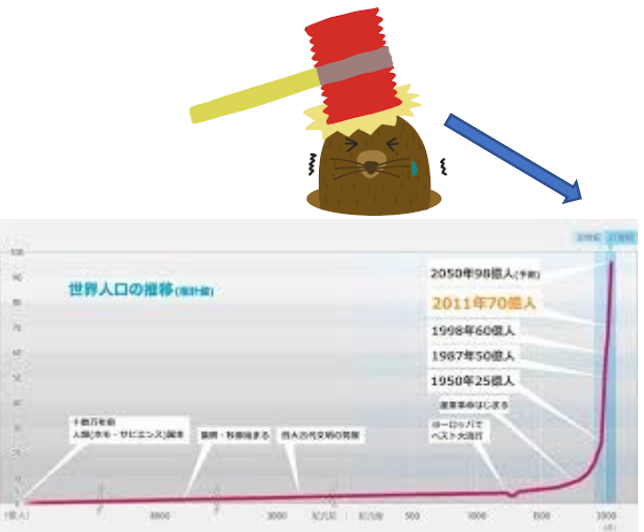


2021/2/24

(うと)〇世話し 大いなる不安? 重要なオマケ篇) 書庫版



どうも 1200 文字以内という範囲の中では、自分のような冗長型人間には、話の内容の展開に無理があるようです。

要するに舌っ足らずになるか、論理の飛躍が起きてしまうようです。

で、前回の記事に対して

「一体何が言いたいのだ?」

「何の話だ、これは?」

というご意見がございました。

なので、今一度簡単に付け加えさせていただきますと

「人類の繁栄は、青天井である、というのは完全な思い込みなのではないでしょうか?」
というのが疑問の核だということです。

人間の側から見るとわかりにくいのですが、自然界の側(相手の立場の側)から見ると、近年、人間の数が異常に膨張し、共存可能な均衡点を超えてしまっている様に見えるからです。増えすぎたものはいずれ淘汰され、減少に転じ、均衡可能な点まで縮小する、というのが自然界の法則です。

これは人間にとっては極めて恐ろしい事実です。ある意味今後は「悲惨なことの連続」が起きる可能性があるからです。

なので、そうなる前に何か自然界とうまく共存できる手立てはないのか?

それを探る第一歩として、正しい現状認識に立つ事が肝要ですが、

その点に立つには、まず

「人間の繁栄は青天井である」

というのが「単なる人間の側から見た、根拠のない思い込みなのではないか？」

という疑問を持つ必要が無かろうかという趣旨だったのでございます。

そのことを最近では、拡大と縮小をうまくコントロールした社会という意味で

「サステイナブル社会」即ち「持続可能型社会」と言い表すようになってはいますが、この探求を、それこそ可及的速やかに、且つ大胆に試行錯誤して、その解を見いだす時期に
来ているような気が致します。

将に2030年迄のこの10年間で、勝負（人類の存続の可否）の期間となる最重要時期ではないでしょうか。